

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全ての職員が虐待の提議や防止法を理解し、虐待をしない、させないを徹底する。そして、適切で良質の介護サービスが提供できる	①虐待通報窓口担当者(今中)を選任 ②高齢者虐待の提議を職員へ周知徹底する ③窓口担当者は職員からの訴えや相談に乗る ④訴えや相談について、事例検討や研修会を開催する ⑤対応困難な入居者への適切な介護について事例検討等行い、適切な介護を共有する。	6ヶ月
2	25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の職員が入居者それぞれの個別性を把握し現状の把握ができる。その上で今後のリスクも予測し現状の把握と共に事故や病状の悪化を予防することができ健康的な暮らしの継続ができる。	①個々の入居者の個性(心身機能、生活歴、家族関係等)を情報の中から汲み取る ②日々の日常生活を観察し現在の有する力を把握する ③今後の心身機能を予測する 総合的に判断し、現在の状況を把握し今後のリスクや可能性についても判断できるようになる	6ヶ月
3	21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	良好な人間関係を支援し、笑顔あふれる共同生活を営む事ができる	①上記の個々の入居者の個性を把握する。 ②個々の入居者間の相性やトラブル発生の原因を探る ③トラブルの予測と防止に努めることができる ④お互いの良い関係が維持できる環境や働きかけをする ⑤利用者同士がお互いを支え合えるような関わり合いができるよう支援する	12ヶ月
4					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。